

教育実習を終えて

3週間と短い期間ではあったが、学校での教員の仕事のごく一部を経験することが出来た。実習では「英語コミュニケーションⅠ」の授業を5回程度行い、そのための教材研究や授業準備に想像以上に時間と労力を費やした。教員の役割は本来これ以上にもう一つの英語の授業である「論理表現Ⅰ」に加え、部活動や生徒指導、進路指導など授業以外の仕事が山ほど有り、それを考えると昨今話題になっている教員の多忙ぶりが窺える。授業面で苦勞した点としては、英語が苦手な生徒に対してどのようにアプローチをすることで意欲的に授業に臨んでもらえるかが特に難しかった。自分が予想していないところでつまずいてしまう生徒や、集中力が切れやすい生徒など、実際に教壇に立ってみないと気が付かない点を多く発見した。様々な先生の授業を見学させていただいたり、自分の授業のフィードバックをいただいたりして、自分では思いつかなかったようなアイデアをたくさん獲得することが出来てとても良かった。授業力を向上させるために実習生同士で話し合ったり、先生にアドバイスをいただいたりして、貴重な経験が出来た。

実習期間の最後には文化祭が有り、行事ごとにおける学校の運営方法や教員の動きを観察することが出来た。文化祭の準備を担当クラスで生徒の補佐をする役割を携わり、やる気のない生徒やクラス目標である文化祭優勝へ向けて前向きに取り組んでくれない生徒へのアプローチにとっても苦しんだ。あまり言いすぎても生徒のやる気を損ねてしまう上に、生徒主体での取り組みに実習生とはいえ先生が干渉しすぎるのも良くないと感じたからだ。感情を表に出さないよう、言葉にしないようにすることが難しく、実習中予想もしていない部分で対処に困ることがあった。生徒には楽しんでもらう時と、真剣に取り組む時のメリハリを付けた行動を意識させることが何よりも重要だと感じた。